一般演題14-3
当院における高気圧酸素治療の現状

新家和樹[1)]　天野陽一[1)]　間中泰弘[1)]
水谷　瞳[1)]　藤田智一[1)]　吉里俊介[1)]
山之内康浩[1)]　内藤明広[2)]
1）刈谷豊田総合病院　臨床工学科
2）刈谷豊田総合病院　乳腺外科

【はじめに】

当院では1984年に脳神経外科の管理のもと高気圧酸素治療装置を導入し，2013年度末時点で延べ4,361症例，37,649回の治療を実施している。治療は臨床高気圧酸素専門医のもと，臨床工学技士10名（臨床高気圧酸素治療技師4名）が対応している。今回，2004年から2013年までの10年間における高気圧酸素治療の現状を報告する。

【治療装置】

開設当初は第一種装置2台で稼働しており，脳梗塞症例等の治療をおこなってきたが，脳梗塞症例が減少していくにつれ，年間の治療件数も減少してきたため2005年度には1台の更新が見送られることになり1台の装置の稼働で治療をおこなってきた。その後は，患者数の増加に伴い治療時間が夜間まで行うことが多くなり治療患者への負担が大きくなったため，2012年8月に第一種装置を新規に1台導入し，現在では2台の装置で高気圧酸素治療を行っている。

【結果】

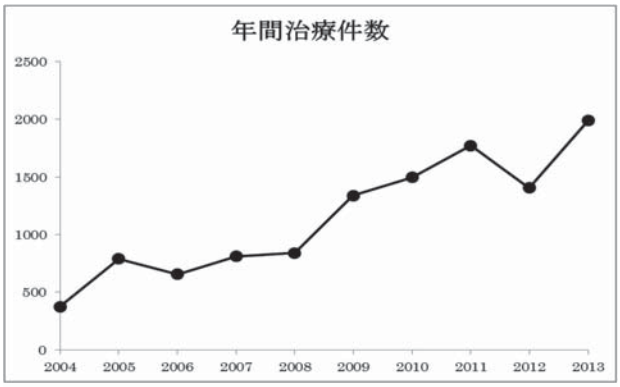
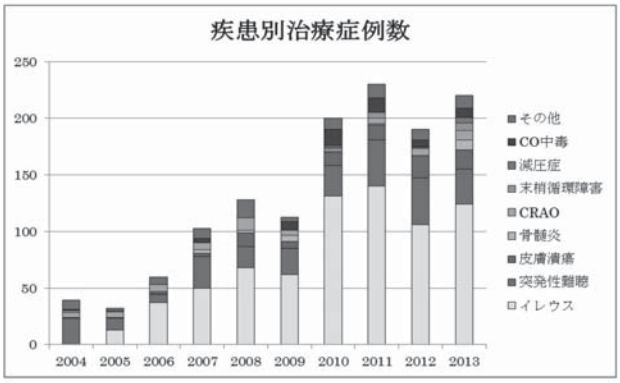
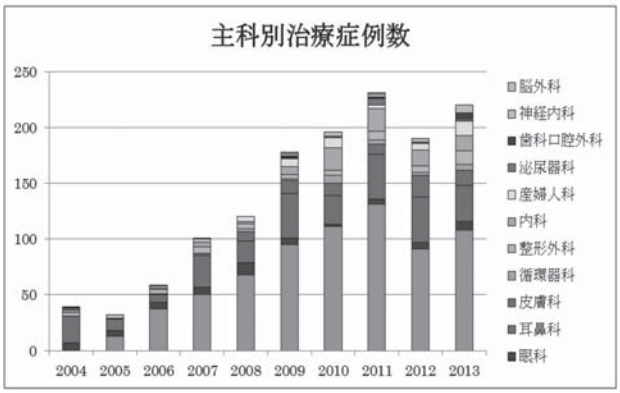
高気圧酸素治療の年間治療症例は，2004年は39例で年々増加していき，2013年は220例と10年間で約8倍近くまで増加した。疾患別治療症例数および主科別治療症例数の内訳は表に示すとおりである。

疾患別治療症例数では，2004年度は39症例の治療を行っており，突発性難聴が全体の6割を占めており，ついでCRAO，末梢循環障害の治療をおこなった。2013年度では220症例の治療をおこなっており，2004年度では一度もおこなわれなかったイレウスが全体の6割を占め，突発性難聴，皮膚潰瘍，骨髄炎などが占めた。症例件数はイレウス，突発性難聴，皮膚潰瘍，CO中毒，減圧症で増加傾向がみられた。

主科別治療症例数では，2004年度では耳鼻科が6割を占めており，ついで眼科，整形外科が多かった。2013年度では外科が5割を占め，ついで耳鼻科，内科，皮膚科，産婦人科，整形外科の6科で全体の9割が占めていた。件数としては，外科，耳鼻科，皮膚科，内科，産婦人科，歯科口腔外科で増加傾向がみられた。全体としては2004年度では6主科からの依頼しかなかったが，2013年度では11主科から高気圧酸素治療の依頼がくるようになった。

【考察･まとめ】

治療件数の推移から契機は2009年度に診療科への各疾患に対する高気圧酸素治療をおこなうことによる治療効果の説明など啓蒙活動を取り組んでおり，それにともなう治療件数増加の効果が確認できた。また，各科の医師や看護師に高気圧酸素の治療プロトコールを作成したことで治療の導入がスムーズとなったことも治療症例数の増加につながったと思われる。

今回の集計によって我々臨床工学技士の積極的な活動が，院内の各科医師に対する高気圧酸素治療への認知度の向上に繋げることができたのではないかと考える。

現在は新たな取り組みとして減圧症及びスポーツ外傷への対応について医師と携わっており今後も治療件数は増加していくとみこまれる。